



真の愛情と姑息の愛

校長 鶴田 和仁



6年生は、3月24日、いよいよ卒業の日を迎えます。この1年間、6年生はみんなで協力しながら全校の先頭になり一つひとつの行事に頑張ってくれました。その取組の中で、それぞれに自信と誇りを身に付けてきたと信じています。

小学校生活6年間で学んだこと、教えられたこと、気付いたこと、それらがすべてこれからの生き方につながっていくと確信しています。

“卒業”は、新たなスタートでもあります。卒業生が、自分の夢に向かって、一步一步、努力を重ね、柔軟に壁を乗り越え、夢を実現していくことを心から期待しています。

また、残された在校生にとっても、25日は1年を締めくくる大切な修了式です。この1年を振り返り、自分の成長に自信を持つとともに、次の学年に向けてしっかりと目標を持たせたいと考えています。子どもたちには、元気にたくましく次の学年へ新しいスタートを切ってほしいと思います。

さて、先日読んだ本の中に「真の厳しさ（真の愛情）」に関する記事が載っていましたので紹介します。

近江商人と呼ばれた江戸時代の中江藤樹が『翁問答』で、駄目な育て方の典型として「姑息の愛」をあげています。「姑息の愛」とは、さしあたりの苦労はさせず、子どもの願いのままに育てることです。一見、慈愛のようではあるが、その子は気ままになり、鳥や獣と同じようになるとしています。例えば、雨の日に、「車で送って！」と子どもが頼みもしないのに、親の方から「乗せていくよ」なんて言うことは決して子どものためにならないというのです。子どもたちは、学年が上がるにつれて、自分でできることが確実に増えていきます。その中には、学力や体力とともに人とつながる力、コミュニケーション力もあります。さまざまな問題に出会ったとき、自分で考え解決できることはこれからの社会を生き抜いていく上でとても大切なことです。友達と遊ぶ中では、小さなぶつかり合いが当然起こってきます。しかし、子どもたち同士で話し合い、折り合いをつけられることが大事で、そういう経験を積み重ねながら、子どもたちは、思考力や判断力が身に付き、徐々に自立をしていくのだと感じています。

子どもは大人が考えるよりけっこうたくましいものです。子どもの力を信じて、時には任せることも大切です。真の愛情を持って、子どもを育ていきたいものです。

この一年を振り返り、子どもたちと保護者の皆様、そして地域とともにある、躍動しつつも落ち着いた学校作りを念頭にさらなる改善を図ってまいります。令和4年度も益々のお力添え、よろしくお願いいたします。



6年生を送る会・お別れ遠足

3月4日（金）に『お別れ遠足』を実施しました。本来であれば、清水公園まで歩いて行く予定でしたが、午後からの天候を勘案し、学校遠足となりました。

まず始めに、「6年生を送る会」を実施しました。1～5年生の児童が、これまでお世話になった6年生へ感謝の気持ちを伝えたり、出し物をしたりしました。その後、6年生から各学年のよいところ発表や特技披露などがありました。本校のよさは、全児童が分け隔てなく、どの学年児童とも仲のよいところです。ほのぼのとした素晴らしい会となりました。

その後は、普段の学校生活では決してできない教室でのおやつタイムを楽しんだり、各学級・学年で遊んだり、楽しい時間を過ごしました。

今回のお別れ遠足では、食育の一環として、「親子で作るお弁当」をテーマに取り組んでいただきました。子どもたちから「お母さんと買い物に行ったよ。」とか「卵焼きを自分で作ったよ。」など、さまざまな感想を聞くことができました。保護者の皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。また、来年度も実施する予定です。御理解と御協力のほど、宜しくお願いいたします。





古小だより

令和4年3月23日発行

3月号 No.2

●生活目標「1年間のしめくりをしよう」

●保健目標「健康生活の反省をしよう」

(心の健康・体の健康)

3学期の学校評価！

<学校教育活動に対するアンケート>

番号	評価項目	平均 2学期	平均 3学期
1	学校は保護者や地域の願いに応えた教育活動を展開していますか。	3.2	3.2
2	学校は学校・家庭・地域の実態を踏まえた特色ある教育活動を行っていますか。	3.1	3.1
3	学校は子ども達がわかる授業、できる授業を行っていますか。	3.2	3.2
4	学校は子どもの気持ちを共感的に理解したり、受容的な態度で接したりしていますか。	3.1	3.1
5	学校は保健指導や安全指導を徹底していますか。	3.3	3.2↓
6	学校は特別支援教育の実践や、保護者・地域への啓発活動を行っていますか。	3.1	3.0↓
7	学校は思いやりや、差別・いじめを許さない人権尊重の心を育てていますか。	3.0	3.1↑
8	学校は地域の環境や人材を活用した指導を行っていますか。	3.1	3.1
9	学校は環境整備に努めていますか。	3.3	3.3
10	学校だよりや週報、ホームページ等による広報活動は充実していますか。	3.3	3.2↓
10項目の平均		3.2	3.15

<児童・保護者についてのアンケート>

番号	評価項目	平均 2学期	平均 3学期
11	子どもの発表態度や聞く態度はしっかりしていますか。	3.1	3.1
12	子どもは学習した内容を理解していますか。	2.9	3.0↑
13	子どもは周りの人によくあいさつしたり、正しい言葉遣いをしたりしていますか。	2.8	3.1↑
14	学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事を通して、子どもの自主性や実践力を育てていますか。	3.2	3.2
15	子どもは進んで運動していますか。	3.2	3.1↓
16	子どもは早ね・早起きをしていますか。	3.1	3.3↑
17	子どもは朝食をしっかりとしていますか。	3.8	3.8
18	子どもはいじめや差別のない学校生活を送っていますか。	3.3	3.4↑
19	学級PTAなどの話し合いや専門部活動に参加していますか。	3.2	3.2
9項目の平均		3.2	3.24

(自由記述に関する御意見と回答) ※行数の関係で自由記述内容については、要約させていただいています。

● フォローアップ教室の実施について

→ これまで放課後の個別指導を実施していましたが、通常時に個別指導が必要な児童が多いため、そこまで手が回らないのが実情です。来年度は方策を考え、より一人一人に寄り添った学習指導や学習支援に努めてまいります。

● 体育館シューズの必要性について

→ 本校の体育館はとても古く、必要性がないのではと疑問に思われるのも納得できます。しかし、体育館シューズを履くことで、体育館の床を傷めず、これ以上の老朽化を防ぐことができます。また、体育館シューズには「グリップ力」があるので、体育館内での「走る・止まる・跳ぶ・着地する」といった変則的な動作の際に体がぶれたり、足を取られたりすることが少ないので、転倒や打撲・骨折といったけが(事故)を防ぐことができます。

● コロナ感染による学級閉鎖についての情報開示等について

→ 結論から言えば、学級閉鎖を決めるのは学校ではなく、設置者である「町の教育委員会」です。学校保健安全法というものがあり、この法令に従って学級閉鎖を行っています。また、コロナ対策のつもりが過剰な反応になって思い込みが差別や偏見を生むため、学校ではコロナ感染者が出た学級の各家庭に電話連絡を取り、事情を説明しています。今後、正しい知識と情報が確立されれば、情報発信の仕方も考えていきたいと思えます。

● 学力向上(鹿児島学習定着度調査を含む)について

→ 今回の結果については、学校として深く反省しています。同じ失敗を繰り返さないために各教科における授業の在り方の共通理解と共通実践を重ねてまいります。また、児童一人一人の実態に即した課題をICT活用を図りながら研究してまいります。

● 廊下や階段などの掲示物について

→ 全ての児童が落ち着いて過ごせる教育環境の整備のため、学校全体で検討し、共通理解していきます。 unnecessaryなものについては撤去します。

● 制服の男女兼用長ズボン導入(ジェンダー児童への配慮)について

→ PTA三役の方とも相談の上、回答したいと思います。

● ネームの変更(縫い付け)について

→ 本年度、防犯上変更した経緯があります。趣旨を御理解いただき、御協力ください。

本年度も保護者の皆様のおかげで、さまざまな点を改善することができました。ありがとうございました。